

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500073		
法人名	社会福祉法人 啓世会		
事業所名	グループホーム葉山苑天領の杜(西館)		
所在地	熊本県天草市本町下河内2231		
自己評価作成日	平成25年2月23日	評価結果市町村受理日	平成25年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市南区馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成25年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○自然に囲まれた落ち着いた環境の中に事業所があります。季節の移り変わりを共に感じ共に喜びながら生活を送っています。事業所の周囲は良い散歩コースです。一歩踏み出せば商店等があり外出を楽しんでいます。
 ○施設内は室温、湿度、臭い、音、光には敏感に反応しつつも落ち着いた家庭的な環境で生活できるように努めています。
 ○接遇面は特に力を入れており利用されている方への心遣いと共に、いつ誰が来られても気持ちの良い施設を目指しています。
 ○家族、運営推進委員の方、地域の方々の協力により少しずつ地域とのつながりが深まっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地にグループホーム2ユニット、小規模多機能型居宅介護事業所、デイサービス等が周囲の自然の恵みを受けながら立地し互いに協力関係を持ちながら運営されています。年々、家族会や運営推進会議等での意見が増えてきているのも地域に根ざして開かれた事業所であることの表れでしょう。毎日のように事業所周辺の散歩や定期的なイベント外出が行われています。又、今後馴染みの関係支援など、もっと個別的に深めて行きたいと考えられています。今後の取り組みに期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づいたグループホーム独自の理念にそって行動できるように日々のミーティングや会議の中で確認し実践につなげている。	理念を忘れず常に意識して行動するように、職員一人ひとりの名札の裏に理念が書かれています。	理念が介護のどの場面につながっているのか、ミーティング等で具体的な場面の話題があがることでより深い意識づけになることもあります。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加やホームの行事案内、また日頃の散歩や外出時に声をかけて頂き交流をしている。地区の小組合には加入して地区行事に参加させてもらっている。	神社の清掃や子供会、地区運動会等への参加など、事業所全体で取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から相談や見学はいつでもお受けしたり、家族会の中で天草認知症家族の会の代表の方に地域の人対象に講話して頂いたり地域の方々に理解を深めてもらうよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催。入居者の入退居や待機者状況、健康面や日頃の活動、行事など予定を伝え意見を頂いている。行事に関しては地域の方の中心となって協力いただいている。	グループホーム、小規模多機能事業所との合同で運営推進会議が開催されています。開設当初から現在と回を重ねる事に地域メンバーからの意見も多くでているようです。	開かれた施設でなければ意見もでてこないことでしょうか、当初より意見が多くなってきたのはその現れだと思われます。メンバーから出た意見に対して対応策や過程を文書として残し次に役立てていかれてはどうでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へ運営推進会議録を提出し現状を報告している。また、看取りなど対応方法で難しい面などアドバイスを頂いている。	運営推進会議に地域包括支援センターが出席されています。看取りの取り組み等の相談など、事業所から積極的に連携をもつようにされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修において身体拘束ゼロへの手引きをもとに学ぶ機会を持ち日々の生活の中で私たちのケアの考え方がそれに当てはまらないか委員会や朝礼・終礼、会議等で確認している。また言葉での抑制はせず傾聴に心がけている。	夜間のみ3点柵を使用されている利用者の方がおられます。身体拘束委員会のメンバーを中心に職員全員で対応方法を検討し、経過観察・再検討記録を残され家族等へ説明されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会で高齢者虐待防止について学びまた市主催の研修会にも参加してもらい意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている入居者はいない。情報として家族に伝えられるように施設内研修で学ぶ機会を作り関係機関につなげるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談や入所申し込み時も十分な説明を行い、契約時も再度十分な説明を行っている。また解約時や改定時も説明を行い署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に説明することで日常的に管理者や職員へ色々な相談や要望を頂いている。また、家族会や面会時に要望等は無いか聞くようにしている。遠方の家族には電話にて近況を報告し要望等を聞いている。	日常的に意見や要望があり行事への取り組みやボランティア対応等に活かされているようです。取り組みは家族会、運営推進会議、年4回発行されているグループホーム通信や毎月の請求書送付時等で利用者・家族に報告されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や終礼、定例会議にて現場の意見を聞き皆で内容を検討しながら反映させ職員の意欲向上に努めている。	2ヶ月に1回の全体会議や、2週間に1回の幹部会議等で意見をまとめられています。勤務体制についてなど具体的な意見や職員移動等、常に職員の資質向上を視野におき意見を反映するよう取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から各職員の努力や実績を認め声をかけたり勤務状況を把握し改善点があれば改善する努力をしたり対応している。また、公平な評価基準のもと毎年の昇給ならびに年二回の賞与を支給しやりがいにつなげ職場環境の整備につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、法人内の研修に留まらず法人外の研修へも積極的に参加促し機会を作っている。経験年数や習熟度に応じ働きながらその場その場で指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会(天草)に加入し定期的な研修会などで情報交換などを行いサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前からとにかく本人の話を聴くようにしている。また本人が訴えることが難しい場合は家族から聞くようにしている。また接遇面は十分に気をつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から要望等が出しやすい環境を作り家族の立場にたって本人との関係性を知り入居に至るまでの家族の思いも受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時やサービス導入時の本人や家族の状況を把握し、状況によっては他のサービス利用も一つの選択肢として情報提供し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に時間を過ごすため家事を一緒にしたり、一緒に外出したりその時間を少しでも分かち合えるように家族のような関係づくりに努めている。一緒に笑ったり、泣いたり、楽しんだり一瞬一瞬を大事にするよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から連絡をこまめに取り、受診にはできるだけ同行してもらい共に考えたり、行事には参加してもらい共に時間を過ごしてもらったり一緒に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも同級生や知人の来苑や入居者それぞれの地区の方が敬老会の案内等持ってこられたり交流が継続できるよう声をかけている。また馴染みの地域へ外出し少しでも何かを思い出してもらったり感じてもらうように支援に努めている。	墓参りやドライブ途中での自宅立ち寄り、知人との海岸散歩、合唱コンクールへの外出等支援に努められています。	利用者一人ひとりの生活歴把握を深め、個別サービスを充実させていきたいと管理者の思いがあります。その取り組みを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活されているため利用者同士自然と助け合う場面が見られたり、声をかけあったりする場面がみられる。利用者の関係を把握し席の配置や交流の仲介役などは職員が配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了してもご家族に連絡し経過を聞き相談に乗ったり、利用者の思い出話を一緒にしたりそれまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴や家族背景、習慣や嗜好などを把握した上で会話や表情を通して思いや意向を確認しながらケアにあたっている。思いなど確認が困難な場合は家族と一緒に本人だったらどう望むかを検討しケアにつなげている。	「生き甲斐や楽しみをもって生活できているだろうか」と会議の際に投げかけ職員一人ひとりが考え共有するように取り組まれています。	日常的な思いや、生活への思い等、時間の経過とともに変化していくことも多々あるでしょう。これからも利用者一人ひとりの思いや意向を大切に支援していられることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から本人や家族、主治医や担当の介護支援専門員、他のサービス事業所の職員等に生活歴や経過など確認し今後も本人らしい生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現在の状況を把握するためにまずどこまでできるのか有する能力の把握に努め有する能力が維持できるように努めている。また一日の過ごし方や、心身の状態など全体の把握を穏やかに過ごせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者以外にも受け持ち制で担当者を決め毎月評価をしてもらい、また日々のミーティングの中で課題について話し合いアイデアを出し合いながらその都度介護計画の変更をしている。	管理者や計画作成担当者が中心となり担当職員による計画作成や月1回の評価が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残すとともに気づきやケアの実践の結果などは細かに記載し職員間の情報の共有や計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じその時に生まれるニーズに対して臨機応変に対応できるように職員間でアイデアを出し合いながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの馴染みの人や場所の中で少しでも資源となるものを多く把握しその人らしい生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続してもらっている。受診の際は家族とともに同行し日頃から関係を築きながら急変時も対応をお願いしている。看取りの際は往診できる主治医や協力医療機関をお願いしている。	かかりつけ医の受診を基本とされていますが、月2回協力医療機関による訪問診療が行われ、希望時はかかりつけ医の変更もされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、看護職が勤務しており、またいつでも連絡が取れる体制になっている。日頃のケアで気づいた細かなことも相談し適切な受診や看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は経過要約を提供し日頃の生活の様子などを伝えている。また、ほぼ毎日面会に行き本人との関係継続を図ると共に主治医や病棟スタッフとの関係構築と情報共有を図り入退院がスムーズになるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの経験がある。契約時に本人や家族へ当施設でできる内容を説明し、重度化や終末期に入る早い段階に再度説明し今後の方向性を決め主治医も含めたところでできることを明確にしながら対応している。また、家族の気持ちもその時その時で変化するため話を十分に聴き思いを受け止め支援に取り組んでいる。	西館での看取りの経験があります。利用者や家族の要望に添いながら重度化や看取り支援に取り組まれています。	看取り支援に取り組まれ、様々な反省点も見いだされたようです。その教訓をいかし支援していかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にて勉強会を行い訓練をしている。職員一人ひとり不安なことが無いように繰り返し行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や職員非常時緊急連絡訓練を実施したり日頃の会議の中でも意見交換する場を作り意識向上に努めている。現在、運営推進委員に協力を頂き地域の方にも協力得ているが今後もっと地域の協力を得ていきたい。	併設の小規模多機能事業所と協力しながら、運営推進会議のメンバーも緊急連絡網に入り協力を得るよう取り組まれ夜間を想定した訓練が今後予定されています。今後火災のみならず自然災害への対応もマニュアル化が予定されています。	災害対策に完結はないでしょう。今後も様々な対策を地域の方々や職員が身につけ、より協力体制が充実していかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇5原則として「笑顔・挨拶・態度・身だしなみ・言葉使い」を掲げており全職員が周知している。また定例会議や日々の朝礼・終礼で見直しお互いに注意し合える環境づくりに努めている。日々の生活の中で本人の人格を尊重し心遣いを忘れないように努めている。	「人と接するという概念を忘れず対応してほしい、(職員)一人ひとりの人間性がともなっていれば誇りやプライバシーを損ねることはない」と法人として接遇を強く推奨し指導され、職員一人ひとりが常に意識して対応するよう努められているようです。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自分の意思で選択したり、希望が言える場面を多く作るように心がけている。自分で表出ができない方は表情や行動で判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや意向、状況に合わせ柔軟に対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡の前で有する能力に応じ身だしなみを整えてもらい衣服もできるだけ自分で選んでもらう機会をつくっている。選択が困難な場合は本人らしい服装を家族に用意してもらい着てもらっている。また、行きつけの理髪店に行ったり困難な人は移動美容室を利用したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、皮をむいてもらったり調理中に味見をしてもらったりしながら準備している。また職員も一緒に食べ行事の時はテーブルセッティングを変えたりして楽しんで食べている。	栄養士が立てた献立表がありますが、食材の差し入れもあり利用者の方と話しながら変更もあっているようです。エプロンを身につけた入居者の方が手際よく準備される姿があり、まな板の包丁の音が心地よく響いていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表で把握し、摂取量が足りていない方には、本人の好みを聞いたり調理に工夫をしたりしている。また体調面と口腔内に問題がないか観察をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、有する能力に応じて口腔ケアを行っている。歯科受診が困難な方は訪問歯科を利用し治療、相談、指導をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の訴えができない方は表情や行動の変化をみて誘導したり、定時で誘導したりしている。できるだけオムツ使用を減らすため日中は布パンツにかえトイレでの排泄成功に努めている。	個人の時間にあわせた2～4時間毎の排泄誘導を心がけておられます。夜間熟睡時の排泄誘導について検討中です。	試行錯誤をしながら利用者にとってベストな支援をこれからもお願いします。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分量に気をつけ食事以外でも水分補給を十分にしている。腹部マッサージや体操を行っているが便秘が強いときは下剤を使用し排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や気分に合わせて入浴を勧めている。入浴時間も一人ひとりの意向やペースに合わせて安全面も配慮しながら行っている。また、気持ちよく入浴してもらうために羞恥心にも配慮している。	1日毎に入浴ができることを基本とされ、個人浴や特別浴等その人にあわせた支援に努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて休息を入れ本人のペースで対応している。ただ、昼夜逆転にならないに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり何の薬を服用しているかわかるように服薬説明書を個人ファイルにはさみ、特に注意が必要な薬は看護師が口頭で繰り返し説明したり記載することで周知徹底している。誤薬が無いように必ず声に出し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食材切り、配・下膳など有する能力に応じてされる。また、先生をされていた方は食事の前の号令を必ず言われる。ビールを沢山飲みたいと言われる方にはノンアルコールビールなどで対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事がある時は張り出したり口頭で知らせたりして行きたい方は一緒に行っている。また会話の中で頻回に出てくる場所に向いたり、家族の協力のもと自宅に行ったりしている。有する能力に応じては家族と生活歴などから出かける場所を探り外出できるように支援している。	毎日のように事業所周辺の散歩を支援するようにされ、月に1回ほどのイベント外出が計画をもとに実施されています。	積極的に日常的な外出支援を実施されています。今後も継続してくださいね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の中で自由に使えるように預かり金を頂き事務所で管理し出納帳をつけ定期的に家族に確認をしていただいている。買い物へ職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望時自由にしてもらっている。有する能力に応じては近況報告を職員が支援したり、家族や知人から手紙を一緒に読み返事を一緒に書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計を見ながら室温、湿度には配慮しエアコンの設定温度や加湿器、酸性水噴霧、換気など行いこまめに調整している。排泄物臭がこもらないようにオゾン発生装置が設置してあり、その他酸性水で掃除したり換気を行っている。廊下、フロアなど季節に応じ壁画を変えたり、花を飾ったりし、また日常生活において職員の声や足音など不快にならないように注意あっている。	2ユニットそれぞれ若干の広さの違いがあっても、それぞれが明るく、窓を開けると季節の風や樹木を感じることができ、テーブルには季節の花がかわいく飾られ、壁には利用者との共同製作の飾りがあったり、生活感を漂わせながら共用空間づくりがなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローリングのフロアには日差しの良いところにソファを置いたり、畳のフロアにはちゃぶ台や敷きマットを敷いていつでもくつろげる環境を整えている。一人で過ごす事を希望される時は椅子一脚を窓際に置いたり居室ですごしたり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力してもらい写真や使い慣れた家具など自由に持ち込んでもらいその人らしく生活できるように支援している。ベッド、チェスト、クローゼットは備え付けがあり、また寝具も施設で用意しておりいつも清潔に快適に過ごせるようにしている。毛布やタオルケットなどは使い慣れたものを持参してもらっている。	事業所の家具や寝具で安全性と清潔が提供されています。利用者個人のタンスに好きな絵が張ってあったり等、居心地よく過ごせる配慮を意識して提供されている事がみてうかがえます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできることやわかることを把握して、家具の配置をしたり予測される行動の妨げとなるものを除去したり本人の自立した生活ができるようにしている。		